

地方独立行政法人 長野県立病院機構 平成28年度年度計画の概要

長野県立病院機構

1 概 要

平成28年は診療報酬の改定や県で策定を進めている地域医療構想への対応など、県立病院を取り巻く経営環境は更に厳しくなることが予想される。しかしながら、当機構は県立病院の各医療圏における使命や役割を再確認し、県の医療政策の一翼を担っていく必要がある。

これらを踏まえ、平成28年度年度計画には新たな専門医制度に対応した信州型総合医養成プログラムを活用した研修制度の充実、こころの医療センター駒ヶ根の「子どものこころ診療センター」開設に向けた準備、阿南病院の認知症専門外来設置などによる地域医療総合支援センターの充実、木曾病院の365日リハビリテーションの実施、こども病院では先天性股関節脱臼の早期発見・早期治療など、県立病院の使命と果たす役割をより明確にするための取組を盛り込んだ。

平成28年度の県立病院機構運営目標を「平成28年度は、診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、適正な業務量の確保を図るとともに、地域医療構想策定に向けた検討状況の情報収集と分析を積極的に進める中で、県民の視点に立ったより安全で質の高い医療サービスを安定的に提供してまいります。」と定め、常に変化する多様な医療ニーズと将来を見据えた必要な事項について定めることとした。

2 平成28年度年度計画のポイント

(1) 人口減少や少子・高齢化を見据えた医療の提供

→産後ケア事業の拡充（須坂）、認知症外来の新設（こころ駒ヶ根）、地域医療総合支援センターの充実（阿南）、アドバンス助産師の認証取得による助産体制の充実（木曾）、先天性股関節脱臼の早期発見・治療体制の強化（こども） 等

(2) 医療・保健・福祉などとの連携による地域全体の医療機能の向上

→須高地域医療福祉推進協議会等による関係機関との積極的な連携（須坂）、地域連携室が中心となり、病院、診療所及び市町村・福祉施設と連携機能を強化（こころ駒ヶ根）、町村や認知症サポーターなどと連携した認知症を地域で支える体制づくりの推進（阿南）、地域連携室を院長直属の室として地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実（木曾）、小児リハビリテーションの研修会・学習会の開催、医療福祉教育機関等との連携のため患者支援・地域連携会の実施（こども） 等

(3) 医療従事者の確保・育成機能の充実と看護人材の安定的かつ継続的な育成

→海外の先進医療機関と連携した職員のインターンシップ研修の検討・実施（こども病院）、日本精神神経学会の精神科専門医制度基幹施設病院の認定を受け、研修機能を強化（こころ駒ヶ根）、連携大学院設置に向けた準備（こころ駒ヶ根、こども）、精神科研修・研究センター開設のための基本設計及び実施設計（こころ駒ヶ根）、日本専門医機構の小児科専門研修基幹施設への指定のための取組（こども）、新たな専門医制度に対応した信州型総合医養成プログラムにより研修医を確保（須坂、全病院及び研修センター）、認定資格等の取得を奨励及び専門研修への派遣を計画的かつ積極的に実施（全病院及び本部）、採用時からキャリア形成に向けての意識付けと各種研修会を開催して様々なスキルアップのための機会を提供（研修センター）、信州木曾看護専門学校の運営及び学校における看護人材の育成 等

(4) 安心・安全な医療の提供による患者サービスの向上

→継続的に医療の質を改善していく委員会による病院機能維持と医療の質を向上（こころ駒ヶ根）、がん相談支援センターによる、相談・情報提供機能の充実（木曾）、病棟薬剤業務の実施や薬剤管理指導業務の充実（全病院） 等

(5) 地方独立行政法人の強みを活かした確実な病院運営の継続（全病院及び本部）

→（仮称）中長期ビジョン（経営改善プログラム）策定に向けた取組、「魅力再発見・組織発展プロジェクト」への取組、県が策定する地域医療構想（ビジョン）に対する的確な対応、県内各地で「公開講座」及び「出前講座」の開催、医薬品・診療材料の購入に当たり購入方法の工夫などにより経費を削減、各種プロジェクトチーム等の活動の継続、DPC（診断群分類包括評価）等各種データを活用し経営状況の分析などを実施 等

平成28年度年度計画の概要（機構全体）

I 平成28年度長野県立病院機構業務運営目標

平成28年度は、診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、適正な業務量の確保を図るとともに、地域医療構想策定に向けた検討状況の情報収集と分析を積極的に進める中で、県民の視点に立ったより安全で質の高い医療サービスを安定的に提供してまいります。

II 年度計画

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

須坂病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ ④平成29年6月のオープンを目指した新棟（内視鏡センター、総合健康管理センター、外来化学療法室等）の建設 ・ ④MR Iの更新による診療機能の充実 ・ ④在宅復帰を促進するためにリハビリスタッフを充実 ・ ピロリ菌外来、海外渡航者外来等の専門外来の利用促進などによる多面的な医療の提供 ・ ④他施設との積極的な情報交換や365日訪問看護の実施などによる訪問看護の充実 ・ 感染症医療の提供 ・ ④がん診療機能の向上（がん遺伝子の先端的検査体制の確立によるオーダーメイド治療、がん化学療法認定看護師の配置、医科歯科連携により外科手術や外来化学療法の周術期口腔ケアを強化） ・ 地域歯科診療所との紹介、逆紹介を推進し地域の歯科口腔外科領域を充実 ・ ④長野市、須坂市、高山村、から「産後ケア事業」を受託し「宿泊型」と「デイサービス型」を提供 ・ ④H30年の電子カルテ更新に向けシステム内容の検討を開始 ・ ④地域医療構想策定のための対応
こころの 医療センター 駒ヶ根	<ul style="list-style-type: none"> ・ 24時間365日体制での救急患者受入れ等による精神科救急医療の提供 ・ ④児童精神科の充実（精神科認定看護師配置、「子どものこころ診療センター」開設に向けて検討チームの設置 等） ・ ④認知症外来の新設 ・ 急性期（依存症）医療の提供 ・ 総合治療病棟の医療の提供 ・ 医療観察法に基づく医療の提供 ・ ④外来機能の充実（診察室や治療施設（m-ECT室）増築のための基本設計及び実施設計） ・ チーム医療体制の確立（病棟薬剤業務の充実）

阿南病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ ④ 医師確保や病棟再編の検討などによる地域医療の推進 ・ ④ 地域包括ケアシステムの構築に向けて関係機関との連携体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ① 下伊那南部医療介護連携モデルシステムの広域化を検討 ② モデルシステムの町内での有効活用推進 ③ 多職種での在宅チーム医療等の推進を検討 ・ ④ 地域医療総合支援センターの充実 <ul style="list-style-type: none"> ① ① 認知症専門外来の実施 ② ④ 認知症デイサービスや認知症カフェなどによる認知症患者・家族への支援 ③ ④ 人間ドック等公衆衛生活動の充実
木曾病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ ① 365日リハビリテーションの実施 ・ ④ がん診療機能の充実（地域がん診療病院としてがん患者の診療及び相談支援体制の充実） ・ ① アドバンス助産師の認証取得による助産体制の充実 ・ 24時間365日体制等による救急医療の提供 ・ 災害時における安定的かつ継続的な医療の提供 ・ 医療機器の更新や職員の増員による透析療法体制を充実 ・ 公共施設を会場に「地域巡回リハビリテーション」の実施 ・ 定期的に医師・看護師・薬剤師等のチームが無医地区を巡回しへき地医療を提供 ・ 地域医療の提供（地域医療構想策定に関して木曾地域で必要とされる医療が継続して提供できるよう取り組む）
こども病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院間連携及び病院間搬送事業体制の充実・強化 ・ 在宅医療連携拠点事業による医療・福祉ネットワークの構築 ・ ④ 在宅人工呼吸器装着患児の救急情報連絡カードの運用 ・ 発達障がいなど子どもの心の診療の充実 ・ 出生前心臓診断ネットワークの充実 ・ 先天性心疾患を持つ成人患者への診療の充実 ・ 遺伝子関連検査機能の強化と遺伝カウンセリング・フォローアップの推進 ・ タンデムマス法検査の実施により先天性代謝異常の早期発見・早期治療などを推進 ・ エコーセンターの診療機能の充実 ・ 予防接種センターの運営 ・ ④ 極低出生体重児のフォローアップ体制の充実 ・ 新生児仮死の児や先天性奇形のある児に対する診療体制の充実 ・ 産科外来の充実（遺伝相談や助産師外来を充実） ・ ④ 入院負荷試験に加え外来負荷試験を拡大し、食物アレルギー診療体制を充実 ・ ④ 長野県の小児重篤患者の受入体制の強化 ・ 小児がんの診療機能の向上 ・ ① 先天性股関節脱臼の早期発見・治療体制の強化 ・ ① 地域医療構想策定のための対応

2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

(地域の医療機関との連携等)

- ・須高地区の「須高地域医療福祉推進協議会」「医療と介護の連携推進協議会」「須高在宅ネットワーク」等による行政、病院、診療所、介護施設、訪問看護ステーション等との積極的な連携（須坂病院）
- ・**新** 病児病後児保育について近隣市町村へ協力（須坂病院）
- ・**拡** 地域連携室が中心となり、病院、診療所及び市町村・福祉施設と連携機能を強化（こころ駒ヶ根）
- ・児童相談所、福祉・教育機関、小児関係医療機関等との定期的な会議による児童精神科医療の役割分担の明確化と、連携関係のより一層の強化（こころ駒ヶ根）
- ・医師、認定看護師等が、地域との連携を推進しながら、認知症医療の診療体制を充実（こころ駒ヶ根）
- ・**拡** 地域包括ケアシステム構築関係事業への引き続きの参画と、在宅医療や介護等と連携した地域医療の役割の明確化（阿南病院）
- ・**拡** 町村や認知症サポーターなどと連携した認知症を地域で支える体制づくりの推進（阿南病院）
- ・**拡** 特養等7施設への医師派遣において、全施設への当院電子カルテシステムの接続と活用の推進（阿南病院）
- ・**拡** 町村や福祉施設へのリハビリ指導のための職員派遣に言語聴覚士も参入（阿南病院）
- ・**新** 地域連携室を診療部から独立させて院長直属の室とし、副院長兼看護部長を室長、看護師長を統括責任者として配置し、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実（木曾病院）
- ・病院・保健福祉関係者連絡会議等の継続的な開催により、地域の関係機関との連携を図り、地域の要望を病院の取組に反映（木曾病院）
- ・木曾医療圏内町村と事業展開での協働により木曾地域の自然を活用した地域振興及び予防医学を目的とする「木曾路の森セラピードック」を推進（木曾病院）
- ・病院医師と医師会会員との連携・情報交換や医師会に病院機能の活用を促し地域医療を推進（木曾病院）
- ・口唇口蓋裂センターでは地域の医療機関とも連携し全県の患者に質の高い医療を提供（こども病院）
- ・3Dモデル造形センターを地域の医療機関及び医療関係教育機関へ積極的にPRし利用拡大（こども病院）
- ・地域の医療機関の職員が参加できる小児リハビリテーションの研修会・学習会の開催、医療福祉教育機関等との連携のため患者支援・地域連携会の実施（こども病院）
- ・信州大学医学部小児医学講座などと共同し、医師や臨床心理技術者などを県内10圏域ごとの研修会などに派遣する県からの委託事業により、県内の発達障がい診療体制の充実に寄与（こども病院）
- ・医師卒後研修施設がある県内の病院等と連携し、シミュレーション研修を引き続き実施（研修センター）
- ・地域医療機関等に医療で必要となる基本的な診療、処置、治療の実践的なトレーニングが行える研修センターが所有するスキルラボ等の活用促進（研修センター）

(5病院ネットワークを活用した医療機能の向上等)

- ・木曾病院及び阿南病院に医師を派遣し木曾地域と下伊那南部地域の精神科医療を充実（こころ駒ヶ根）
- ・病院の助産師を木曾病院へ派遣し助産師の教育体制を充実（こども病院）

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(医療従事者の確保と育成)

- ・パンフレット、ホームページ等広報の充実、医療系職種養成学校の訪問活動、学生就職ガイダンスへの参加などにより医療系職種の採用活動の強化
- ・須坂病院及び木曽病院は臨床研修指定病院（基幹型）として臨床研修医の確保に努めるとともに、各県立病院において臨床研修プログラムの充実による臨床研修医の積極的な受入れ
- ・機構本部と病院が連携し大学医局との関係強化を進めるとともに、医師研究資金制度の活用などにより、県外からの医師を確保
- ・信州型総合医養成プログラムを活用し、新卒医師等の初期臨床研修後の受け皿としての役割を果たすことで、地域医療を志す医師を育成・確保
- ・看護師・助産師のほか、事務職・医療技術職を含め、幅広い職種について機構の魅力を経験できるインターンシップ事業を展開
- ・**④**看護師が看護業務に専念できるよう介護福祉士、看護補助者等の採用を推進（須坂病院）
- ・認知症看護認定看護師等による相談体制の充実と地域への啓発活動の実施による認知症サポーターの育成及び院内研修会の実施による職員のレベルアップ（阿南病院）
- ・**⑤**信州大学医学部に今年開設予定の院内助産普及に向けた人材育成事業に参画するとともに、当該研修を中堅助産師に受講させ、アドバンス助産師の認証を取得（木曽病院）
- ・寄附金を財源とした病院独自の職員研修助成基金を活用し、こども病院の将来を担う人材を育成（こども病院）
- ・**④**海外の先進医療機関と連携した職員のインターンシップ研修の検討・実施（こども病院）

(研修体制の充実)

- ・基礎研修から専門研修まで含めた研修の実施と研修カリキュラムを構築し、職員の知識・技術を向上（研修センター）
- ・**④**新規シミュレータを導入し、シミュレーション研修を充実（研修センター）
- ・**④**ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターへの機構職員の派遣研修などを通じ指導者の育成、スキルアップを図るとともに、当該指導者を中心に各病院シミュレーション研修の実施（研修センター、5病院）
- ・研修センター分室では、各県立病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施し、多様な医療ニーズに対応できる専門性の高い人材を育成（研修センター、木曽病院、こども病院）
- ・スキルラボを活用したシミュレーション研修を実施（研修センター）
- ・**④**採用時からキャリア形成に向けての意識付けを行うとともに、各種研修会の開催により、様々なスキルアップのための機会を提供（研修センター）
- ・**⑤**日本精神神経学会の精神科専門医制度基幹施設病院の認定を受け、研修機能を強化（こころ駒ヶ根）
- ・**④**平成29年度の精神科研修・研究センター設置に向けた準備と、連携大学院設置に向け信州大学との詳細協議の実施（こころ駒ヶ根）
- ・**⑤**精神科研修・研究センター開設のための基本設計及び実施設計（こころ駒ヶ根）
- ・平成29年度の連携大学院設置に向け信州大学医学部と事務的な調整（こども病院）

(医療技術の向上)

- ・全職種の医療技術向上と職員の資質向上に役立つ認定資格等の取得を奨励し、専門研修への派遣を計画的かつ積極的に実施
- ・県立病院での業務に活かせる知識・技術等を取得させるため、大学院等へ進学できる環境を整備
- ・働きながら大学院等への進学を希望する職員に配慮した修学部分休業制度を活用
- ・**新** 児童精神科病棟へ認定看護師を1名配置し、診療体制を強化する。(再掲)

(医師の育成と定着の支援)

- ・新たな専門医制度に対応した信州型総合医養成プログラムを活用し、新卒医師等の初期臨床研修後の受け皿となり地域医療を志す医師の育成・確保
- ・信州型総合医養成指導の中核機関として、平成29年度から始まる新たな専門医制度に対応したプログラムとスタッフの充実を図り、専門分野に特化した指導体制を強化し豊富な臨床の場の提供によってジェネラリストの養成と定着を推進(須坂病院)
- ・初期研修医をはじめとする臨床研修医、若手医師、医学生、看護師、医療技術職員の育成とスキルアップを図るため、本部研修センターと密接に連携し、シミュレーション教育を積極的に取り入れた病院独自の育成プログラムを実施(須坂病院)
- ・**新** 新たな精神科研修プログラムをホームページに掲載し、研修制度について広くPRして研修医を確保(こころ駒ヶ根)
- ・「へき地医療臨床プログラム」に基づいた信州型総合医養成の取組(阿南病院)
- ・**拡** 新制度の専攻医募集に向けた日本専門医機構の小児科専門研修基幹施設への指定のための取組を継続(こども病院)

(信州木曾看護専門学校の運営)

- ・特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成
- ・教員等の安定的確保及び教育力の向上
- ・学生確保に向けた取組み
- ・学生の学習環境及び生活環境の整備・充実
- ・地域関係団体等との連携・協力体制の構築
- ・組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

(医療に関する研究及び調査の推進)

- ・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続・参加(須坂病院、こころ駒ヶ根、こども病院)
- ・**新** 8月に行われる全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会及び3月に行われる日本小児心身医学会関東甲信越地方大会の事務局を運営(こころ駒ヶ根)
- ・厚生労働省や文部科学省の科学研究費を活用した臨床や遺伝解析などの基礎研究の取組を推進。大学等の教育研究機関と連携した共同研究等への取組を推進(こども病院)
- ・治験の積極的な実施による臨床研究への参加
- ・県民の健康増進に寄与するため、県立病院で行った研究や調査の成果をホームページで公開、学会への参加、地域の懇談会、講演会、公開講座及び出前講座の開催

(医療水準の向上への貢献)

- ・ 須坂看護専門学校へ職員を講師として派遣するとともに、薬剤科、リハビリテーション科、栄養科等の実習生の積極的な受入（須坂病院）
- ・ 県看護大学、信州木曾看護専門学校、須坂看護専門学校等へ職員を派遣し精神科医療について講義（こころ駒ヶ根）
- ・ 信州木曾看護学校等への講師派遣及び実習生の積極的受入の継続実施（阿南病院）
- ・ 信州木曾看護専門学校への非常勤医師の派遣と実習生の受入（木曾病院）
- ・ 地域の医療機関の職員が参加できる小児リハビリテーションの研修会・学習会の開催、医師や臨床心理技術者などを対象とした発達障害診療に係る研修会などへの職員派遣、エコーセンターにおける超音波診断に関する専門医・技術者等の人材育成（再掲）（こども病院）
- ・ 大学等の研究機関と連携した共同研究等への取組推進（こども病院）

4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(医療安全)

- ・ 医療安全の標準化と質の向上を図るため、医療安全への取組状況を医療安全管理者が互いに実地確認し合う医療安全相互点検を引き続き実施
- ・ 県立5病院共通の医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を引き続き実施し、課題の把握を行い、改善策の立案や体制を整備
- ・ 感染症発生時を想定した患者受入訓練を関係機関などと実施（須坂病院）
- ・ 病院勤務医等の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上を図るため、病棟において薬剤師が実施する薬剤関連業務を積極的に展開（5病院）
- ・ 感染防止地域連携病院との相互査察の実施（こども病院）

(患者中心の医療の実践)

- ・ ④ 介護福祉士、看護補助者職員を活用した日常生活支援の実施（須坂病院）
- ・ 地域医療福祉連携室の医療相談によるセカンドオピニオン体制の維持（須坂病院）
- ・ ⑨ 継続的に医療の質を改善していく委員会による病院機能維持と医療の質を向上（こころ駒ヶ根）
- ・ 午後診療の継続を目指した医師確保（阿南病院）
- ・ 時間予約制の浸透による患者の利便性の向上（阿南病院）
- ・ 病棟薬剤業務及び薬剤管理指導業務の充実による安全かつ効果的な薬物治療の推進（阿南病院）
- ・ がん相談支援センターによる、相談・情報提供機能の充実（再掲）（木曾病院）
- ・ 患者サロンの定期的な開催による患者への支援（木曾病院）
- ・ セカンドオピニオンの提供やがん早期発見のための関係機関との連携・強化により相談・情報提供機能を充実（木曾病院）
- ・ セカンドオピニオン外来の充実（こども病院）

- ・ ㊦平成28年度の成人移行期の慢性疾患患者に対する自立支援センター開設に向け、院内ワーキングチームにおいて検討を継続（こども病院）
- ・ ㊦安全かつ効果的な薬物治療のための薬剤管理指導業務の充実（こども病院）

（患者サービスの一層の向上）

- ・ 患者満足度調査の実施と5病院間で満足度向上のための取組内容等の情報交換
- ・ ㊦臨床評価指標（クリニカルインディケーター）や医療の質の評価指標（クオリティーインディケーター）をホームページ上に公開
- ・ 患者の意見を収集する「意見箱」や「須坂病院アンケート」の意見をサービス向上委員会で活用（須坂病院）
- ・ ㊦患者と医療者の対話を促進する医療メディエーション活動を推進するための組織を設立（須坂病院）
- ・ 広報誌を須高地域に全戸配布するほか、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等の掲載（須坂病院）
- ・ ロビーコンサート、なごみ市などの継続によるアメニティの向上（阿南病院）
- ・ ホームページの迅速な更新や病院だよりの発行による地域への情報発信（阿南病院）
- ・ クレジット支払いの対応により患者の利便性を向上（木曽病院）
- ・ 患者・家族を支援するチャイルド・ライフ・スペシャリスト及び患者サイドに立って患者からの相談等に対応する医療相談員による患者サービスの向上（こども病院）
- ・ ㊦病棟保育士1名を地域型職員に登用し、チーム医療における保育業務の専門性及び自立性を向上（こども病院）
- ・ 院外薬局との連携により院外処方せんの発行率を向上（こども病院）
- ・ クレジットカードで自動決済できるシステムを積極的に周知し利用率を向上（こども病院）

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

(組織・人事運営)

- ・**⑧**看護師が本来の業務に専念できる環境を確保するため、介護福祉士、看護補助者等を活用（須坂病院）
- ・**⑧**医療スタッフが医療の提供に専念できる環境を整えるため、児童精神科病棟に児童指導員、A2・B2病棟に看護補助者を配置（こころ駒ヶ根）
- ・病院独自に医師の業績評価を引き続き試行実施し、本格導入に向けた試行結果を蓄積（こども病院）
- ・現行の人事評価制度について、評価対象を医師へ拡大することや給与への反映方法の見直しの具体的な検討

(多様な働き方の支援)

- ・看護師が本来の業務に専念できる環境を確保するため、介護福祉士、看護補助者等を活用（須坂病院）
- ・職員満足度の向上に向けた、経営企画会議での検討・取組の継続（阿南病院）
- ・非常勤保育士を確保し院内保育所利用者の増加に対応（木曽病院）
- ・**⑧**院内保育所の夏休み等の自由登園期間中の一時預かりを拡充し、職員の多様な勤務に対応した働きやすい環境を整備（こども病院）

2 経営力の強化

(職員意識の向上)

- ・経営改善に取り組み安定した病院経営を行うため、月次決算をはじめとする経営指標について理事会などで確認するとともに、その状況の全職員への周知を徹底
- ・経営指標により管理会計の要素を取入れ
- ・経費節減チームによる院内ラウンドと節電キャンペーンにより、組織内に経費節減意識を醸成（須坂病院）
- ・職員間の理解を深めるため院内広報誌を発行（須坂病院、こころ駒ヶ根、阿南病院、木曽病院）
- ・職員の能力向上と相互理解を深めるため、日頃の研究成果を発表する院内研究発表会を年1回開催（木曽病院）
- ・各部門別のBSC（バランス・スコアカード）の展開の充実を図り、チーム医療を推進（木曽病院）
- ・**⑧**医療の質と経営基盤の強化に向け、より一層働きがいのある組織づくりを図るための「魅力再発見・組織発展プロジェクト」への取組
- ・病院経営への職員の参画意識を高めることなどを目的に、業務改善に関する提案をなど職員から募集する「病院力アップ職員提案」を引き続き実施（機構全体）

(経営部門の強化)

- ・自院の診療の質を知ることによって経時的な改善を図るため、参加している全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会のQIプロジェクト（QI推進事業）を継続（須坂病院）
- ・DPC請求の精度向上を図るとともに、診療科ごとの原価計算システムやQI（クオリティー・インディケーター）指標を利用し、病院経営分析を充実（こども病院）
- ・信州大学医学部附属病院との勉強会、全国小児病院による研究会の開催などにより、DPC調査データの分析力や経営分析を行える資料の作成能力を向上させ、データを全職員が共有し、医療の質及び経営の質を向上

3 経営改善の取組

(年度計画と進捗管理)

- ・各病院長は、その付与された権限に基づき、各県立病院の医療機能を最大限に発揮するよう、P D C Aサイクルにより業務の進捗管理と経営改善を図り、年度計画の確実な達成に責任を持つ。
- ・各病院の月次決算の状況を的確に把握し、機構全体として経常損益及び資金収支の向上を図り、経営を安定化

(収益の確保と費用の抑制)

- ・臨床評価指標（クリニカルインディケーター）及び医療の質評価指標（クオリティインディケーター）を公開
- ・管理者会議、運営会議等でベンチマークとする病院（民間・公的・他自治体病院等）の指標について比較し、経営の質を向上
- ・新診療報酬と原価の関係を把握し、より効率的な医療を提供するため部門別原価計算などの管理会計の導入について検討
- ・信州大学医学部附属病院との勉強会、全国小児病院による研究会の開催などにより、D P C調査データの分析力や経営分析を行える資料の作成能力の向上などを図るとともに、データを全職員が共有し、医療の質及び経営の質を向上
- ・**新**第2期中期計画策定後の情勢の変化に対応するための（仮称）中長期ビジョン（経営改善プログラム）策定に向けた取組
- ・各予算執行者が、中期計画、年度計画及び長期的な投資計画や収支見通しに基づいた、責任ある予算原案を作成
- ・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（再掲）（須坂病院、こころ駒ヶ根、こども病院）
- ・**新**医療器械購入費、診療材料費、経費、それぞれの見直しチームを設置し経費削減の取組を推進（須坂病院）
- ・一泊人間ドックの宿泊先等ドックのあり方を検討（須坂病院）
- ・クリニカルインディケーターを用いた分析や経営企画会議の開催の継続による、増収と費用削減への意識付けと各部門での実践（阿南病院）
- ・在庫管理システムの検討、光熱水費の執行状況の周知、経費節減のための事務連絡会議を活用した委託費等の見直しによる一層の経費の節減（阿南病院）
- ・診療科別原価計算による医療材料費などの削減の検討（阿南病院）
- ・D P C分析結果の運営委員会等へフィードバックした改善への取組（木曽病院）
- ・人間ドック受診者増加に向けた取組（須坂病院、阿南病院、木曽病院）
- ・薬品管理システムと統合して運用を開始した物流管理システムについて、預託方式のメリットを活かした、より細分化した診療材料費の払出し等による費用削減（こども病院）
- ・**拡**診療材料メーカー訪問での直接値引き交渉により費用を削減（こども病院）
- ・**拡**システムを活用した診療報酬請求漏れ防止対策による、診療報酬請求事務の精度の向上（こども病院）
- ・材料、委託等の費用の見直しによる経費削減の取組

(情報発信と外部意見の反映)

- ・広報誌を須高地域に全戸配布するほか、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等を掲載（須坂病院）
- ・病院だより・ホームページや木曽広域のCATV及び文字放送の利用により地域住民へ情報発信（木曽病院）
- ・県立病院の取組や健康情報を広く県民に対しお知らせをする「公開講座」及び「出前講座」を積極的に開催するなど、地域への情報発信に努める。

○指標及び目標値

(単位:%)

病院名	医療材料費／医業収益 比率	ジェネリック医薬品 使用割合	病床利用率
須坂病院	22.6	70.0	81.8
こころの医療 センター駒ヶ根	5.9	—	79.8
阿南病院	17.7	60.0	60.0
木曽病院	25.3	70.0	78.1
こども病院	20.0	70.0	74.3

第3 予算 (略)

第4 短期借入金の限度額

- 1 限度額 20億円
- 2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等、資金繰り資金への対応

第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画 なし

第6 剰余金の使途 病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる

第7 その他県の規則で定める業務運営に関する事項 (略)